

期間 平成20年12月16日(火)～
平成21年1月18日(日)
展示内容 宇宙を舞台にしたSF映画
展示場所 福岡県立図書館1階エントランスホール

2009
a space
odyssey

2009年宇宙への旅

福岡県立図書館所蔵 映画資料

S F 映画の中から、宇宙を舞台にした 4 人の監督の映画資料を展示しました。

ジョージ・ルーカス (1944 -) アメリカ

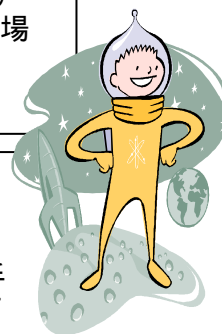
レースドライバーを目指すのが事故で断念。南カリフォルニア大学で映画を学び、多くの短編を制作。そこで制作した『電子的迷宮 / THX-1138:4EB』を長編劇映画化した『THX-1138』で商業デビューを果たす。その後『アメリカン・グラフィティ』を監督した後、『スター・ウォーズ』の世界的ヒットにより一躍スター監督となる。また、彼の起こした『THXプログラム』などで上映環境の向上に大きく貢献している。

スタンリー・キューブリック (1928 - 1999) アメリカ

13歳からカメラに熱中し、16歳の時にルーズベルトの死を報じる写真が“ルック”誌に買われ、17歳で同雑誌の社員となる。カメラマンをしながら映画の勉強をし、短編映画『拳闘試合の日』の製作が映画制作に関わるキッカケとなる。『博士の異常な愛情』『2001年宇宙の旅』『時計じかけのオレンジ』はSF三部作と呼ばれ高い評価を得ている。

スティーブン・スピルバーグ (1946 -) アメリカ

幼いころから8ミリカメラの短編映画を撮り、カリフォルニア州立大で映画を専攻。在学中、ユニヴァーサル社に勝手にもぐりこんで映画製作を学び、初の35ミリ映画『アンブリン』を完成させる。ユニバーサルテレビ部門の責任者に認められ、テレビ映画監督として契約。テレビ映画『激突!』が高い評価を受け、『続・激突! / カージャック』(1974)で劇場用映画デビュー。以来、興行記録を塗り替える作品を次々と発表している。『シンドラーのリスト』(93)、『プライベート・ライアン』(98)でアカデミー賞監督賞を受賞している。



リドリー・スコット (1937 -) イギリス

ウエスト・ハートプール美術大学でグラフィックデザインなどを学び、その後、ロンドン王立美術大学に進学し、映画を専攻する。卒業後、BBCに入社し、テレビ番組の演出を手がける。BBCを退社後、自らCF制作会社を設立し、CM監督として活躍する。数多くのCFを制作し、各国の国際映画祭で数々の賞を受賞。その後、映画界に進出し、デビュー作『デュエリスト / 決闘者』(1977)でカンヌ国際映画祭新人監督賞を受賞、2作目の『エイリアン』が大ヒットする。

展示資料一覧

監督名	映画タイトル	資料名
ジョージ・ルーカス	『スター・ウォーズ』1977年	スチール5枚・プレスシート
	『帝国の逆襲』1980年 (製作総指揮)	チラシ
	『帝国の逆襲<特別篇>』1997年 (製作総指揮)	チラシ
	『ジェダイの復讐』1983年 (製作総指揮)	ポスター・チラシ
	『ジェダイの復讐<特別篇>』1997年 (製作総指揮)	ポスター・チラシ
	『エピソード1<ファントム・メナス>』1999年	チラシ
	『エピソード2<クローンの攻撃>』2002年	パンフレット・チラシ
	『エピソード3<シスの復讐>』2005年	チラシ
スタンリー・キューブリック	『2001年宇宙の旅』1968年	パンフレット
スティーブン・スピルバーグ	『未知との遭遇<特別編>』1980年	ポスター・プレスシート・スチール
	『E.T.』1982年	ポスター・パンフレット
	『宇宙戦争』2005年	チラシ3枚
リドリー・スコット	『エイリアン』1979年	ポスター・パンフレット